

「国語」・「算数」の力と学習の様子

～『R6 全国学力・学習状況調査(2024.4.18)』結果から～

今年度は、国語、算数の調査が行われました。どちらの教科でも、学校での授業の工夫や家庭での学習支援の効果が表れています。

◎は良いところ ▲は伸ばしたいところ



★国語について

①「学習指導要領の内容における結果から」

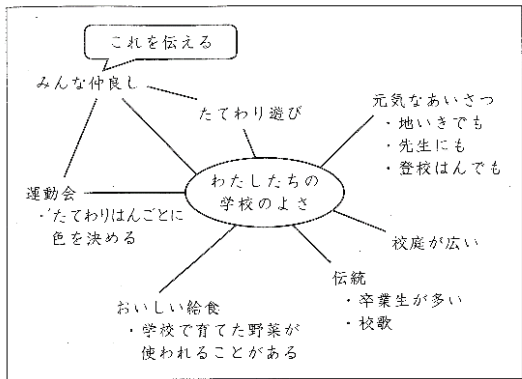
◎「知識及び技能」では、言葉の特徴や使い方に関する事項においてよくできていました。しかし、漢字を文中で正しく使うことには偏りがみられます。引き続き、漢字練習や音読練習などを丁寧に行い、活用する機会を豊富に設定し、繰り返し行うことで、基礎・基本を確実に身に付けることができるように支援します。「思考力・判断力・表現力等」では、「読むこと」がやや苦手な傾向がありましたが、「書くこと」はよく頑張っていました。

②『特に正答率の高かった問題』

◎【情報の扱いに関する事項】

問題 情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができるかどうかをみる問題

【高山さんのメモ】



【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一存のよさだと思うから、文章に書こう。



(1) 高山さんが、文章を書くことを決めるために、どのように考えましたか。最も適切なものを、選択しましょう。

- 1 賛成と反対の立場から考えた。
- 2 書きやすい順番を考えた。
- 3 ほかの人の考えを取り入れて考えた。
- ④ 集めた情報の共通点を考えた。

(2) 【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択しましょう。

- 1 出来事が起こった順に言葉を線でつないでいる。
- ② 中央の言葉と関係する言葉を線でつないでいる。
- 3 似ていることをまとめて丸で囲んでいる。
- 4 良い点と問題点を分けて丸で囲んでいる。

【メモ】と【考え】を見ながら、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることがよくできていました。取り上げられている文章の内容が自分たちの経験したことがある「たてわり遊び」や「運動会」であったことや、文章を書くために用意した【メモ】も実際に書いたことがあることも、よい正答率につながったと考えられます。五感を刺激する実際の体験は、言葉とイメージをつなげ、理解を手助けする力になったのではないのでしょうか。

③『課題のある問題』

▲【読むこと】

問題登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題

3 原さんの学級では、物語を読み、心に残ったところについて説明することになりました。原さんは、「オニグモじいさんの朝ごはん」という題名の物語を選んで読んでいます。次は、原さんが読んだ「物語」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【物語】 ※アからエと、①から④、.....の内容は、あとの問いで取り上げられます。

空はふかい青色になって、それから、みどりっぽくなって、それから、やわらかなむらさき色になりました。

さいごにのこった三つのお星さまが、ひとつ、ひとつ、きえていきました。

オニグモじいさんは目をさまして、のびをしました。

「うん、うん。しずかだなあ。みんなは、まだねてるらしい」

それから、あたりを見まわすと、ちよつとさびしうに、こうつけくわえました。

「どうせおきてたって、わしのどこにあいさつにくるやつなんか、いないだろうけどな」

ひとりぐらしのオニグモじいさんは、もうだいふ年をとっています。

「ひさしぶりに、だれかとゆっくり話でもしたいがな」

オニグモじいさんはため息をついて、あしもとを見ました。

「ほお。つめたいと思ったら、朝つゆがこんなに……」

オニグモじいさんがすわっている巣にも、まわりじゅうの草にも、小さなしずくがびっしりならんでいます。そして、なにもかもが、ふわふわの朝もやにつつまれています。

ア 朝日がのぼったら、さぞかしきれいだろうな。そうだ、じまんの巣を、すこしはなれたところから、ながめてみるでしょう」

オニグモじいさんは、糸をだして、ふらんとぶらさがると、朝の風に吹かれて、どなりの草むらにうつりました。それから、そのままぶらぶらさがる。

(1) オニグモじいさんがハエの女の子にどのように話すかまよっていると考えられるところを選びましょう。

ア～エの4つから選択

三 原さんは、鳥さんと話し合ったあと、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をまとめています。あなたなら、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。
- 「物語」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十文字以上、百字以内にとめて書くこと。

※左の原紙用紙は書き用紙なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、原紙用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。とらゆうで行を定めないで、続けて書きましょう。

.....
以下 4 ページ続く

つまずきの原因

オニグモじいさんとハエの女の子の交流を描いた物語を読んで、登場人物の心情などについて、描写を基に捉えることや人物像を具体的に想像することなど、物語を【読むこと】全般に課題がみられました。そのため、次問の「【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く（記述式）」の正答率も伸びませんでした。特に、この最後の記述問題は、無回答率が高かったことも、心配される状況です。

条件を満たしつつ決められた字数制限下で自分の考えが伝わるようにまとめる力は、大切です。「心に残ったところ」はあるものの、「心に残った理由」を言語化できなかつたり、「心に残ったところ」として書くことができなかつたりしたと考えられます。これからも、読書活動を充実させるとともに、まずは繰り返し「書くこと」の練習を行っていきます。そして、子どもが一所懸命捻り出して書いたものを否定せず、良い点をほめてよりよい記述に繋がる工夫をくり返し行っていきたいと思います。

★算数について

①「学習指導要領の4領域における結果から」

◎どの領域でも、力をつけています。「数と計算」及び「図形」の領域が比較的好くできていることが分かりました。基礎・基本を大切に、繰り返し練習してきたこと、間違ったところをそのままにせず、どこで間違えたのかも一度見直すことなど、日々の地道な取り組みが効果をあげていると考えられます。

②『特に正答率の高かった問題』

◎【数と計算】

問題 示された場面を解釈して、数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題

(1) ゆうまさんは、折り紙を72枚持っています。
ゆうまさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より28枚少ないです。
こはるさんが持っている折り紙の枚数を求める式を、下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア $72 + 28$
- イ $72 - 28$
- ウ 72×28
- エ $72 \div 28$

(2) たくみさんは、はじめに折り紙を何枚か持っていました。
ゆうまさんから38枚もらって、全部で62枚になりました。
このことを、たくみさんがはじめに持っていた折り紙の枚数を□枚として式に表します。
下のアからエまでの中から、正しい式を1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア $62 + 38 = \square$
- イ $\square + 38 = 62$
- ウ $\square - 62 = 38$
- エ $\square - 38 = 62$

未知の数量を表す記号として□などを用いて、問題場面どおりに数量の関係を式に表すことが、たいへんよくできていました。□を使うことが、立式に効果的だったといえます。

しかし、(1)のように、問題場面に、「少ない」などの言葉があるけれども、計算は加法を用いる場面の問題では正答率が40%も下がる結果になりました。数量の関係がつかみにくい問題に課題が見られます。問題文をよく読み、関係を図に書くなどの解決する手立てを指導していきます。

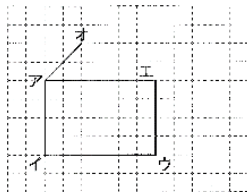
◎【図形】

問題 直方体の見取り図について理解し、書くことができるかをみる問題

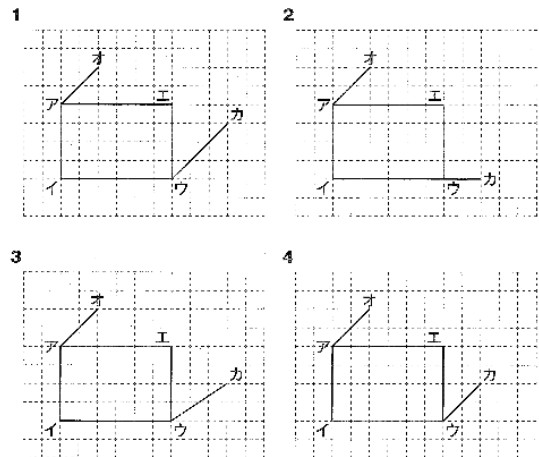
3

ことねさんたちは、いろいろな立体について学習してきたことを振り返っています。

(1) 直方体の見取り図を、方眼紙にかいていきます。
まず、下のように点アから点オまでを直方体の頂点として、かきました。



次に、下の1から4のように、点カの位置を決めて、直方体の辺ウカをかこうとしています。辺ウカとして正しいものはどれですか。
下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



図形を構成する要素である面と面、辺と辺等の位置関係に着目しながら、作成途中の直方体の見取り図について、辺として正しいものを選ぶことが、よくできていました。辺の平行関係や長さへの理解が高いといえます。これからも、辺や面の位置関係に着目しながら、作図作業を丁寧に指導していきます。

③『課題のある問題』

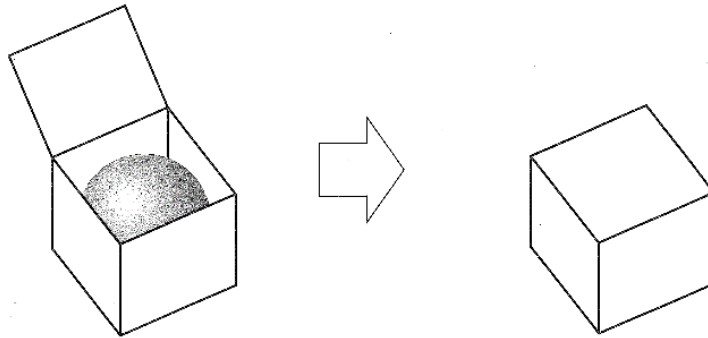
▲【図形】

問題 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

答え $22 \times 22 \times 22$

誤答例 ① 22×3.14 など 3.14 を用いた式 ② 22×22 等

つまずきの原因と対策

直径 22cm の球がぴったり入る立方体の体積の求める式を書く問題です。

誤答で一番多かった 22×3.14 など 3.14 を用いている児童は、円の直径と円周率から体積をもとめることができると誤って捉えていると考えられます。また、 22×22 と解答している児童もいることから、面積と体積を混同している児童もいるようで、身の回りの形から図形を捉え、球の直径の長さや立方体を構成する要素から、体積を求めるために必要な情報を判断できるようになることが大切といえます。

「一辺×一辺×一辺」の公式などをただ覚えていても、さまざまな図形問題でつまずく要因になってしまいそうです。授業では、公式は「なぜそうなるか」ということを子どもが気付けるような工夫（じっくり理解させていくこと）を考えていきます。「やり方」よりも「意味」を考えることに重点をおいた学習展開を心がけます。

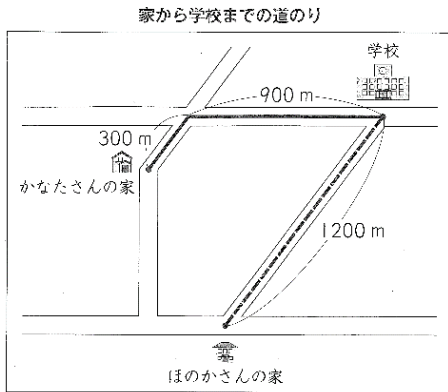
さらに、図形の学習には、具体物を使い、図形を真上や真横から観察するなどして、球はどこから見ても同じ円であること、その円の直径は球の直径と等しく、立方体の一辺と等しいことなど、生活経験と絡めながら理解を深める工夫に努めます。



▲【変化と関係】

問題 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。
 家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。
 それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。
 下の **1** と **2** から選んで、その番号を書きましょう。
 また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1** かなたさん
- 2** ほのかさん

答え 【番号】1 【わけ】A 道のりが等しいこと、かかった時間を基に、わけを書いている。
 B かなたとほのかの歩く速さを基に、わけを書いている。

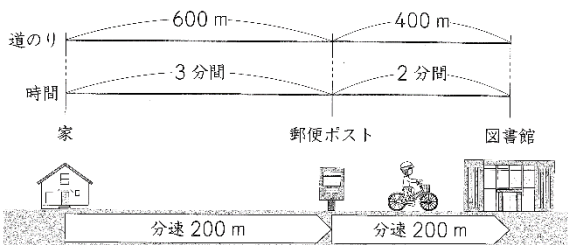
誤答例 【番号】1 【わけ】かなたは20分間、ほのかは24分かかったから(不足)
 かなたとほのかの歩いた道のりが等しいから(不足) 等

つまずきの原因と対策

ほとんどの児童が、かなたの方が速いと判断できています。しかし、その理由を記述するうえで、道のりが等しいこと、かかった時間についての二つの事柄を書くことができず、言葉不足による、誤答が多かったと考えられます。速さなどの単位量当たりの大きさの意味及び表し方について、丁寧に指導していく必要を感じます。下記の問題の正答率からも、速さの意味についての理解に課題があると思われます。また、例年、記述式の解答が不十分なので、授業の中で、記述(方法・理由・事実)することを丁寧に扱い、表現力を身に付けることに留意していきます。

問題 速さの意味について理解しているかをみる問題

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通過して図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。
 郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。
 家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。
 答えを書きましょう。

答え 分速200m
誤答例 分速400m
 分速1000m 等

分速は足せる!?

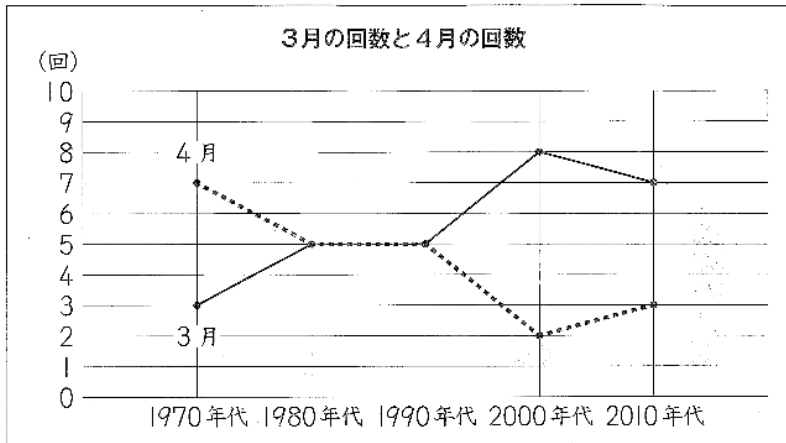


▲【データの活用】

問題 必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題

(3) こうたさんは、1970年代から2010年代について、C市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。

そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下のよう折れ線グラフに表しました。



こうたさんたちは、左の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。



こうた

1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。



ひなの

3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。



しおり

3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

左の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。

答え ①3月と4月の回数が最も大きい年代は2000年代である。

②その回数の違いは、6回である。

誤答例 ・①しか書いてない ・無回答 等

つまずきの原因と対策

折れ線グラフから必要な数値を読み取り、その差に着目する問題です。

折れ線グラフは、1目盛り1回を表す単純なグラフであり、差が一番大きい年代を読み取ることができていることを考えると、問題文を最後まで読み取っていない可能性が考えられます。この問題に至るまでに3ページを要し、文章を読み解きながら解答していく問題スタイルに慣れていないともいえます。無回答率の高さを見ても、内容を把握しきれず解答を諦めてしまっているのではないかと推測します。

表やグラフの学習では、表題や単位の確認など基本的なことを押さえ情報を解釈したり、データを読み取って捉えたことを伝え合う活動を行ったりするなど、児童が必要なデータを読み取れているかを確認する活動を設定していきます。また、読書活動など読解力の向上につながる日々の活動を大切にしていきます。

★学習や生活について

◇よい傾向 ◆心配な傾向

《学習に対する興味・関心》



◇調べ学習や、考えをまとめたり発表したりする場面や授業で、ICT 機器の使用率が大変高い傾向にあり、児童の身近な道具として日常的に使用されているといえます。また、約9割の児童が、次のような ICT 機器活用の効力感を感じています。

- ・わからないことがあった時、すぐに調べられる。
- ・画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる。
- ・友達と考えを共有したり比べたりしやすくする。

◇多くの児童が、自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じています。

◆国語の勉強も算数の勉強も大切だと思っていますが、「好き」と答えている児童の割合は低い傾向にあります。

《生活習慣・学習習慣》

◇課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童が多いです。

◇学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に築いたりすることができているようです。

◇多くの児童が、友達関係に満足していると答えています。

◆SNS や動画視聴の時間が、3 時間以上に及ぶ児童の割合が全国と比べても非常に高い傾向にあります。

◆携帯・スマホの使い方について、家の人と約束を守っている児童も低い傾向にあります。

◆平日、土日ともに学校の授業時間以外に勉強する児童や、自分で計画を立てて勉強する児童も少ない傾向にあります。1日当たりの勉強時間(平日)を1時間以上と答えている児童の割合も低いです。

《自分自身に関すること・自己有用感》



◇将来の夢や目標を持っていると答えた児童の割合が高い傾向にあります。

◇先生は、あなたのよいところを認めてくれている、わかるまで教えてくれていると思っている児童が多く、先生と良い信頼関係が築けているようです。

◆学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる児童は少ない傾向にあります。

